

昭和十二年九月二十日第三種郵便登記
昭和十二年十二月三日發行 (毎月一日、十一日、廿一日發行)

第九號

報部

日一月二十年二十和昭

- 臺灣農民の野菜報國に就て
(殖產局農務課)
- 銅、鐵、ステーブルファイバー
の需給調整に就て
(殖產局商工課)
- 發しては萬朵の櫻—

地 方 情 報
(臨時情報部)

美談集錄(七)

附錄事變(臨時情報部)

日誌

臺灣總督府

臨時情報部

10
1
2
3
4
5
6
7
8
9
11

臺灣農民の野菜報國に就て

殖産局農務課

「戦捷の要は精銳なる軍隊と旺盛なる精神力に在り」とは言ふものの、糧秣なくしては如何に精銳なる軍隊も永く戦闘を繼續することは出来ないのであります。戦史を繙けば糧秣不足の爲に苦戦に陥り或は敗戦の憂き目をさへ見た例は枚挙に違がないのであります。

今回の支那事變に際しましても第一線部隊特に快速部隊の先頭を行く部隊が糧食の不足に如何に苦しんだかは想像以上であります。戦線が短く或は背後の糧秣供給地點との距離が近かつた時即ち比較的糧秣輸送の容易な戦線にありましても、野菜類の供給と言ふ事は非常に困難であります。出戦部隊の大部分が副食物は殆んど罐詰の魚肉、獸肉のみであると言ふことです。従つてビタミンCの補給は不足勝であり、戦線の勇士達が野菜類を渴望して居ることは非常なものださうであります。斯かる事實を耳にしましたならば何とかして出来るだけ多く新鮮なる野菜類を戦線に送り身命を賭して御國の爲に戦ひつゝある勇士達を喜ばせてあげたいとは銃後を守る誰しもが考へる處であります。が、殖産局に於きましても軍當局の依頼を受け、各州農務關係職員、農會、青果會社等の協力を得まして、十月中旬より生野菜の戦線向輸送を開始致しました。しかし生野菜と言つても耐久力の關係から葉菜

類の大部分は輸送が非常に困難でありまして先づ不可能と見て差支ありません。

しかば何の位の耐久力があればよいか?つまり收穫してから將士の口に入る迄には何の位の日數を要するものであるか?少くも約一箇月であります。尤も特別の場合で極少量のものは二週間位で差支ない場合もあります。

そうなると輸送可能な生野菜の種類も自ら限定せられる譯でありますと見て差支ありません。

大根は現地到着前に既に變敗せるものもあり、將來追送には不適當と思はれます。

今回の出荷は寒地向の輸送であり、取扱も倥偬の際の事故不充分でありますので、その荷造方法も相當嚴重で手間がかかるのであります。大部分のものは芭蕉籠詰でありますと、大根及蓮根だけを木箱詰としたのであります。そして籠も箱もその内側に一枚重ねの新聞紙をあて、その中へ生野菜類を入れました。芋類の如きは籠の中央部に竹編みの換氣筒をたて内部の放熱換氣を良好ならしめました。今後はキャベツ、茄子等も出荷する豫定であります。

それでは現在何の位の數量を調達出荷してゐるのであるかと申しますと、大體一箇月〇〇〇噸でありますと、その調達に關しましても斯く多量を一定期限内に纏めて出荷すると言ふことは並大抵のことではなく、私利私慾を棄てた理解ある農民諸君の熱意と州、郡、街庄並農會關係職員各位の献身的効力とが相俟つて初めて爲し得られた輝かしい成果であると衷心より深く感謝して居る次第であります。殊に各州に於きましては割當數量出荷の外に獻納生野菜栽培の計畫さへ樹てられ着々と實行せ

られつゝあることは誠に喜ばしいことであります。

然し乍ら本島の原野を見渡します時に青々とした蔬菜畑を到る處に見受けますし、二月、三月は野菜類の出盛期であります。之等葉菜類は何とかして戰線へ送れないものであらうか。勿論葉菜類の中でも甘藍、結球白菜等は比較的保存性を有して居りますので、一、二月頃から發送する計畫ではあります。之等にしましても生の儘の輸送より以上に簡便で確實性のある方法があれば、それに越したことはありません。

臺北帝國大學、臺北州、新竹州等が協力研究の結果、之を乾燥する事に成功し、一、二月の葉菜類出盛期から三、四、五月にかけて之等原料豊富なる時期を利用し大量製造の上戰線向發送することとなりました。蔬菜類の乾燥貯藏は内地に於ては既に試みられて居たもので、殊に寒國に於きましては必要に迫られて各自家に於て小規模ではあります但行つて來てゐる方法であります。

今次事變の勃發と共に軍の切實なる要求はこの製造に拍車をかけまして宮城、栃木、茨城、千葉、静岡、長野、愛知、廣島、福岡、宮崎等の各縣に於きまして數十箇所の工場が軍の指定工場として作業を開始して居ります。然し何分にも原料の供給は充分でなく、現在でも主として根菜類を乾燥してゐるのであります。これからそろ／＼冬に入りますと作業休止の止むなきに立至るであります。

然るに本島では却つてこの時期に原料の供給益々豊富となり一月末から二月、三月は最盛期でありますと、之を乾燥して貯蔵するのであります。

しかしこの乾燥は天日に曝したのではビタミンCは全部破壊されてしまふばかりでなく、再び之を還元調理した場合に決して元の様な緑色は呈しないのであります。枯草を水につけた様にしかならぬのであります。即ち野菜の乾燥は熱氣又は熱風によらねばならぬのであります。従つてこの作業には相當の設備を要する譯であります。幸ひ臺北、新竹兩州下に於ては茶の乾燥をやつて居る關係上乾燥設備は相當にあるのでありますが、製茶工場の大部分は山地にありまして原料の大量輸送が非常に困難であります。そこで比較的平地に近く交通の便利な數箇所の工場を利用することとして差當り右二州で製造出荷することとしたのであります。臺北州では特に臺北市に乾燥工場を新設することとなり目下設計中であります。

乾燥野菜として適當なものは大體次の様なものであります。

葉菜類及根菜類

大根、蕪菁、波菜、野蜀葵(以上ハ拔菜モ可)、人參、牛蒡、蓮根、筍、萵苣、甘藍、大芥菜、白菜、茼蒿、芥菜、蘿蔔、甘藷、馬鈴薯。

果菜類

茄子、胡瓜、南瓜、木瓜。

然し乍ら御承知の如く葉菜類の九十何%は水分であります。乾燥しますと大體一〇〇匁の生原料から六乃至八匁の製品しか出来ないのであります。従つて一噸の乾燥野菜を作る爲には一三噸以上の生原料を要するのであります。

次にその製法を簡単に述べて見ませう。

第一に原料を精選して不良なものを除き次に良く水洗して泥、塵を除去し根菜類の如きは大部分剥皮を行ひ細く切斷致します。(葉菜類は葉柄の太いもののみ切り目を入れるなり切斷するなりしますがその他はその儘です。)

次に之を熱湯處理又は蒸熟處理致します。熱湯處理とは、沸騰水中に極めて短時間即ち葉菜類で一三分、根菜類は三十五分浸漬する方法であり、蒸熟處理とは熱い蒸氣中に於て熱湯處理の場合の約二倍の時間蒸す方法であります。

この處理は一種の色止め作用をなすものでつまり組織内の酵素を破壊し腐敗し易い蛋白を凝固せしめる爲施すのであります。

但し「アク」の強いものは一般に熱湯處理が適して居ります。

この處理を終つたならば直ちに冷水につけます。

これが野菜類の新鮮なる色を残すに忘れてはならぬ處理の一つであります。

次に之を暫時清潔なる場所で陰干にして水を切つた後、金網を張つた枠の上に一重並に並べ乾燥機に入れます。水を切る爲壓搾機を使用するのは感心しません。根菜類は廻轉式乾燥機でもよろしいが、葉菜類は葉が捻れるので成るべく廻轉式でない方がよろしい。

乾燥時間は乾燥機の種類によつて多少異りますが大體四乃至五時間位で最初の二三時間は約攝氏八〇度次の二時間位は約六〇度が適當であります。

之で大體出来上る譯であります、乾燥機から出したものはしばらく冷い仕上室に並べるのがよろしい。

乾燥の程度は水分含量一三一一〇%であります。

出來上つた製品は勿論この儘濕氣の入らぬ様にして貯藏してもよい譯でありますが、輸送上の利便、保存等の見地から約一瓦位宛を一定の形に壓搾して置く方が一層良いのであります。壓搾しますと容積が約七分ノ一位に縮少されます。特に軍用としては容積の縮少と言ふ事が輸送上に非常に重要な事であります。それ許りでなく壓搾するとある程度變敗の防止にもなるのであります。

以上で大體解ります様に乾燥野菜製造には非常に多量の生原料を要するのでありますし、この外に前述べました様なその儘で輸送する生野菜も亦多量に必要なであります。従つて現在の生野菜供給數量は決して之だけで充分なのではなく、むしろ如何程あつても足らないのであります。軍當局も多ければ多い程良いと希望して居られます。

幸ひに本島は天恵に浴し冬季野菜の栽培が自由に出来まして内地に於ては殆んど不可能なるこの重要役割を果し得ると言ふことは、我々島民の非常なる喜びであり又この役割を受持つことは我々の義務でもあるのであります。故に農民諸君は稻作の休閑期を利用し、國家の爲喜んで一致協力之等必要な野菜類の栽培に努力せられんことを切望して止みません。

銅、鐵、ステーブルファイバー の需給調整に就て

殖産局商工課

一 立 法 趣 旨

今次の支那事變に關聯する經濟界の客觀的情勢に照應して制定された所謂戰時立法の一である「輸出入品等に關する臨時措置に關する法律」は第一に政府が輸出入品の制限禁止を爲し得ることを規定し、第二に特定物品の需給調整を爲し得ることを規定するものである。

此處に述べんとするのは第二の規定に基き本島に制定された府令に就てであるが、同令の制定趣旨は即ち前法律の立法趣旨であるから、今該法の理由に就て一言することとする。

戰時に際しては一般物資を多量に必要とし、從てこれ等を輸入に仰がねばならないが、殊に資源の充分ならざる我國の如きに於ては國防又は之に關する產業に要する物資の輸入確保の爲には勢ひ國際收支等の關係に依り國防上必要以外の商品の輸入を極力制限すること、具體的に云へば不要、不急と認められる物品の輸入或は產業上特に必要なる原料も直接國防に關係のないものは國內消費の節約、

代用原料の使用に依つて節約し、出來得る限りの輸入制限を爲すことは寧ろ當然の措置と謂ふべきであらう。

然し乍ら斯る場合一方に於て輸入を制限するのみでは當該物品は勿論之を原料とする製品の配給は漸次圓滑を缺き價格はより昂騰せざるを得ない。從てこの虞を除去する爲には積極的には代用品の使用、消極的には國內消費の節約等適宜の需給調整策を講ずるの必要がある。而してこれ等需給調整の爲には國民の自治的統制に俟つべきは勿論であるが、尙その完璧を期するには法律の制定が豫想され得るのである。

右の如き理由に依つて今回本島に於て特定物品の需給調整の爲に府令の制定を見た所以は羊毛の輸入制限に關聯してその代用原料たるステーブルファイバーを毛絲又は毛織物に混用するの要があり、又一般民需用の鐵鋼、銅の使用を制限するの必要を認めたるに由るものである。

以下これ等規定の内容に就て略述することとする。

二 鐵鋼工作物築造の許可制限

本規定是一般民需用の鐵鋼使用を制限せんとするものであるが、制限範囲を鐵鋼工作物（建築物を含む）に限定する。即ち鐵筋「コンクリート」造、鐵骨造又は鐵造の工作物を築造せんとするものは地方長官の許可を要するが、臺灣總督の指定する工作物又は構造用として使用する鐵鋼の數量五十噸以下の工作物の築造に就ては許可を要しないものとする。

- 一、採礦業並に金屬製鍊業及製鐵業（普通鋼材製造業にして製鋼又は壓延の設備のみを以て營むものを除く）
- 二、明礬石、礮土貢岩、粘土（ボーキサイトを含む）、マグネサイト、ドロマイト、耐火粘土、珪石、螢石又は酸性白土の採取業
- 三、輕合金又は可鍛鐵鋸物の製造業
- 四、蹄釘、錨鎖又はドラム罐の製造業
- 五、自動車用瓦斯發生裝置、ガソリン機關、重油機關、電信電話機械器具（家庭用ラヂオ用具を除く）、採礦機械器具、選礦機械器具、製鍊機械器具、化學工業用機械器具、氣體壓縮機、球軸受又は防毒具の製造業及工作機械器具（製材及木工機械を除く）、機關車、貨車、自動車、鋼船若は航空機又は同部分品若は同附屬品の製造業
- 六、兵器又は同部分品若は同附屬品の製造業
- 七、硫酸、硝酸、壓縮アンモニア瓦斯、石炭酸、メタノール、グリセリン、硝酸アンモン、人造クリオリット、アセトン、染料中間物、其の他のコールタール分溜物誘導體、火薬、爆薬、導火索、人造石油（頁岩石油を含む）、コークス（セミコークスを含む）、コールタール分溜物、代用液體燃料、硫酸アンモニア、研磨材料、電氣用カーボン又は活性炭の製造業及石油精製業

八、光學ガラス、強化ガラス、安全ガラス、船燈用着色ガラス又は耐火煉瓦の製造業

九、電氣供給事業（本告示に掲ぐる事業に必要なる電力を供給するものに限る）

十、石油輸入業

十一、海運業（沿岸航路のものを除く）及航空業

右の各種の事業の用に供する製錬場、選錬場、工場、鐵塔、索道、岸壁、棧橋、起重機、タンク、

倉庫、給水設備、排水設備其の他之に準する工作物に就ては許可を要しない。

右以外の工作物建築に當つては總て許可を必要とし、その制限に當つては贅澤品其の他の不急品の製造事業等差當り擴張を必要とせざる事業方面への鐵鋼使用は極力制限されるわけである。

三 ステーブルファイバー等混用命令

羊毛の輸入に就ては既に「輸出入品等に關する臨時措置に關する法律」第一條の規定に基く輸出入許可規則に依つて制限を受けてゐる爲に、本規定はこの代用としてステーブルファイバーを使用せしめ國內に於ける羊毛需要の調整を計らんとするものである。即ち着尺セル、毛布（膝掛を含む）、梳毛絲を用ひざる羅紗、フランネル又はメートル式番手三十二番以下の梳毛絲を三本以上撚合せたる手編毛絲を製造する場合に於ては、ステーブルファイバー其の他の毛に非ざる纖維を混用することを要するることを規定する。

四 銅の使用制限

本規定は鐵鋼工作物建築許可制限に於けると同様に建築物に適用されるのであるが、その適用範囲はより狭く限定され、主として屋根、庇、樋、化粧張、煙突又は排氣筒として銅を使用せんとする場合に許可を要し、一建築物に付百疋を超える銅を庇及びに附屬する樋に使用する場合には許可を要しない。

而して許可の制限に當つては美術館、博物館、記念塔、國際建築物、社寺等原型永久保存の必要なものに就ては原則として許可される方針である。

五 結 語

以上各種の規定は何れも商工省令に基き制定され、尙今後他の物に就ても同様の措置が採られる場合もあり得ると考へられるが、それ等の中には或は直接本島の實状に該當せず又は多大の效果を期待しえぬこともあり得るが、要是事變下に於ける内、外地協調の趣旨を以て國策に順應せんとする目的に依るものである。

地
方
情
報

○高砂族の從軍志願

新竹州臨時情報部

今次支那事變の勃發せるや州下高砂族に對しては不逞なる徒輩の流言蜚語に惑はされ又は血氣の小
勇に逸り人心の動搖等來ざる様關係職員を督勵し各種會合の機會に於て新聞、ニュースに依りラヂ
オ、活動寫眞等に依り極力正確なる認識の把握に努め國民として、時局に對處する方途を指示し以て
蕃地治安確保上萬遺憾なきを期しつゝあるが、彼等は　皇軍が一死報國暴支膺懲の聖戰に臨み日夜
困苦艱難を克服し又は壯烈戰場の華と散り、勇猛果敢に暴虐極りなき支那軍を擊破し赫々たる武勳を
輝かし東洋永遠の平和確立に奮闘する狀況等眞相を知るに及び、勇奮蹶起皇恩に酬ゆる千載一遇の好
機至れりとなし、或は血書從軍を志願する者、或は血染の國旗を贈り出征軍人を激勵する者、又は從
軍々夫を歎願する者等續出の状態にして滅私奉公の赤心、日本人的一大勇猛心寃に熾烈なるものあ
り、然れ共現狀に於ては從軍は到底不可能にして戰場のみか國家に對する忠義に非ず、銃後の堅き護

の聖旨を體し、國家總動員の意氣に燃え農業報國を念願し一層勤儉貯蓄の實を擧げつゝ晏如として家業に精勵し今は出征軍人及其の家族に對する慰問又は國防獻金に或は馬糧の獻納等に總ゆる銃後の赤誠を披瀝し蕃情極めて平穩である。

次に事變勃發以來十月末日迄の各郡下に於ける從軍志願者の數を示せば左表の通りである。

大溪部	郡別	社
リリュン社	社名	-
タイヤフ社	人員	一
ラオ社	郡別	同
ソロ社	社	エヘン
カウイラン社	別	テイリツク
カク社	人員	五三
ラウ社	郡別	同
カク社	社	ケイフイ社
バニ社	別	一
バニ社	人員	五一
カク社	郡別	同
カク社	社	一一
カク社	別	一
カク社	人員	三六
カク社	郡別	同
カク社	社	三七
カク社	別	一
カク社	人員	三〇

大溪郡	カソノ社	一〇	竹東郡	キンロワン社	二二	大湖郡	タビラス社	一四
同	ジヘン社	五五	同	シバジー社	一一	同	センバン社	一五
竹東郡	マトエ社	一一	竹南郡	ロツカホ社	一一	同	タバライ社	二二
同	マイライ社	一二	ムケラカ社	二二	同	マバトアン社	二二	同
同	バスコワラン社	二三	アミン社	二二	同	ハントアン社	二二	同
同	メントユー社	一二	チユブス社	一二	同	ハンテウ社	二二	同
同	タバホ社	一八	ヤバカン社	一九	同	カカリ社	一九	一三
同	タイヤカン社	同	計	計	同	計	六五九	一
同	テントン社	同	同	同	同	同	同	同
同	バスコワラン社	同	同	同	同	同	同	同
同	タバホ社	同	同	同	同	同	同	同
同	タイヤカン社	同	同	同	同	同	同	同

○最近に於て支那事變に關し執りたる措置

(臺南州臨時情報部)

一 非常時局と納稅精神の發揚

本年四月一日割期的稅制の改正に伴ふ國稅營業稅並に今次支那事變特別稅の創設あり、時恰も十月二十五日は第一回の納期限に相當し、特に納期を同じくする第三種所得稅等州下を通じて等調定額三三六・九〇〇圓四七錢、同人員五五、六六六人に達し之が納稅成績に付ては尙からず憂慮し居りたる

も、關係當局者の銳意納稅精神の發揚に努めたると一般納稅者が非常時局を認識し納稅報國の赤誠を披瀝したる結果は臺南市を除く外一市十郡、六十六街庄悉く完納し徵收步合金額九九・四%、人員九九・二%の好成績を擧げ非常時財政の運營上遺憾なきを期せしめたり。

二 愛國婦人會臺南州支部の指導

今次事變勃發以來當州支部の善導に付ては銳意努力しつゝある所なるが支部役職員並に會員亦協力一致各種團體と連絡提携の下に機を失せず、晝夜兼行使命の達成に邁進しつゝある現況にして銃後の熱誠眞に感激の最高潮を呈しつゝあり、今主なる實施事項を列舉せば左の如し。

(一) 八月十四日臺灣軍の戰時體制轉移に伴ふ警備配置と共に臺南市内〇〇〇、嘉義市内〇〇〇の警備〇〇〇の爲差當り必要品として風呂桶、下駄、盥、石炭殼、木炭、茶、石鹼、手拭、洗面器、塵紙、下帶、靴下、燐寸、雨傘、其の他、菓物を寄贈せり。

(二) 日の丸國旗の贈呈

〇〇〇〇〇〇〇將士の出征に當り士氣振作の一端として前後三回に亘り日の丸國旗四百四十枚を贈呈せり。

(三) 祭具の寄贈

臺灣步兵第二聯隊内に戰死者の祭壇を安置せらるゝに當り當支部に於ては之に要する紫幕一張、御寫真立及附屬品として御膳、御水入、御撰米入、土器各百人分其の他神立等を寄贈し且つ御神は毎週之を取替へつゝあるが、右祭壇には會員二人宛毎日參拜者の案内及御供物取替其の他の用務に從事し

つへあり

一六

尙、近く執行せらるべき戦死者の慰靈祭に當りては更に支部より紫幕一張、幔幕一張、御寫真立及附属品一切、祭壇用白布等寄贈の豫定にして目下準備中なり。

美談集錄

卷之三

卷之三

大敵の前に立はだかり激闘一夜

太倉と常熟を繋ぐ大道路を進撃してゐる安達部隊が敵の前衛陣地を席巻し、常熟の前方二千メート

橋に火を放つたので、同部隊が到着したときは炎々と燃え上る焰に囚まられて、彼の二〇〇。

して来た戦車を尊び、「先づ國家部隊が度々空襲、二度三度、

木いが、この橋脚が崩れ落ちて、二臺の戦車と福家部隊とは一瞬にして本

卷之三

○出征將士に對し慰問品として冬シャ

支部役職員一同は十月二十五日第二聯隊を訪問し

月二十六日陸軍病院を訪問し飴三〇〇袋を夫々贈呈し將士を慰藉する所ありたり。
其の他支部は本州軍事扶助委員會に加盟し州下に亘り應召(出征)軍人の歡送、接待、遺家族の慰問
激励、家事上の労力援助、戰勝祈願祭及葬儀の參列等事變勃發以來役職員並に會員の燃ゆるが如き熱

誠に依り使命の達成に努めつゝあり。

隊との連絡を絶たれ、敵陣地から僅か百米の対岸に孤立の状態に陥つてしまつた。

それまで整壕内に引込んで猛射を浴びせてゐた敵はこの状態を見るや戦車を鹵獲せんと物凄く砲火を集中すると共に、二千餘名は遂に福家部隊に向つて大舉襲撃して来て同部隊を三方から包囲した。然し我が戦車と部隊は少しも怯まず獅子奮迅の勢ひで暴れ廻つた。然し遂に戦車は數發の砲弾を受け操縦者と銃手四名は戦車内で壯烈な戦死を遂げ、二臺共動かなくなつてしまつた。

アツ戦車がやられた。自ら先頭に立つて部下を叱咤し應戦につとめてゐた福家部隊長は戦車の停止を見て憤激「戦車を敵に奪はれては日本軍の恥だ、一兵になるともこれを敵に渡すな」と叫ぶや部隊全將士を戦車の周圍に集結して勇敢にも大敵を前に「死の戦車」を死守した。

かくする中に日は暮れ雨は降りしきり、敵の猛撃は愈々激しくなり暗夜を衝いて敵兵は襲撃を繰り返して来る丁度真夜中頃だった。何度目かの襲撃に押かけた三百餘の敵兵は我が機銃の掃射に刀向つて容易に退かぬ。餘りの執拗さに業を煮やした福家部隊長は「小癪な奴め！」と激怒の面相物凄く、陣刀を大上段に振舞し群る敵兵の中に躍り込んだ。「ソレ隊長を討たすな」と豪勇無双な部下達は銃剣のフスマを作つて後に續き、敵兵を片端から薙倒し、突き伏せれば、さしも頑強な敵兵も肉彈の前には一堪りもなく逃げ去つた。此の白兵戦で福家部隊長は下腹部、大腿部の二箇所に貫通銃創を負つたが、氣丈な隊長は自ら傷口を白布で綿帶し、部下の肩に縋りながら戦車の傍に引返しドッカと戦車の前部に腰を据ゑ「戦車を奪はれるときは俺は潔く自決するのだ」と悲壯な決意を固めて頑張つた。部下一同もこの隊長の意氣に勵まされ、一同「死んでも渡すものか！」と互に勵まし勵まされつゝ奮戦

の一夜を明かした。

十七日未明山内(章)部隊の決死的架橋作業によつて焼け落ちた橋も修理されたので後續部隊がドツと渡河し、敵の重圧から福家部隊を救出した時には、福家部隊長は重傷と疲労のために意識は既に朦朧となつてゐたが両手はシツカと戦車の窓を掴んでゐた。部下から「隊長ッ！ 戰車は無事に守りました」と聞かされるとニッコと微笑みながら野戰病院へと後送されて行つた。

◆砲一門 最後の一人

六百の敵を見事制壓

磁縣停車場壯烈の死守

十一月十四日午前零時十分、北支の冷え切つた寒氣をついて歩哨より「残敵夜襲」の報に接した鈴木准尉の率ゐる六勇士は、たつた一門の〇砲を中心位置について、直に猛撃の火蓋を切つた。敵は早くも眼前四十米に接近し弾丸は文字通り雨霰と飛んで来る。第一發の發射を終へると共に、江橋伍長は右胸部に敵弾を受けバッタリ其の場に仆れてしまつた。アツ江橋が、と驅け寄る准尉の右腕を貫く敵の一弾。

西方より襲撃してゐた敵は更に右前方より機關銃、小銃弾を浴せて來た爲、今まで鐵路西方に向つてゐた我軍は此の方向の敵に連續的猛火を浴せかけた。一時二十分掘越上等兵は右肩を射抜かれたが怯まず尙も任務を遂行中、又も一弾は右胸部より左に貫いた。「上川、上川」と上川上等兵を呼ぶ堀越戰友の聲にも顧る違もない。上川上等兵は心に戰友に詫びながら、ダダダ！と打ち来る敵の機銃目

がけて照準を續けた。

准尉は右腕負傷のため一番を鈴木一等兵に交代せしめ鮮血したる右腕を手拭でしばり、重い照準桿を持つて移動指揮を續けて砲手の不足を補つた。この時飛来した一弾は鈴木砲手の腹部に盲貫、「ヤラレタ」「殘念だ！」と叫び乍ら血に染つてドット倒れてしまつた。

部下五名のうち三名の重傷者を出した鈴木准尉は、今は一刻も猶豫ならじと「シッカリ後を頼むぞ、俺は衛生隊に連絡に行くから」と言ひ残し百五十米後方の停車場に向け走り去つた。植木一等兵は命を受けて歩兵との連絡のため既に後方に走つてゐるので、砲には結局上川上等兵唯一人となつてしまつた。

右に左に走り飛びながら十一發の弾はすつかり打ち盡された。執拗な敵の攻撃は前にも増して物凄く續く。

然し用意の弾は盡きた、彈薬車に走り寄つて更に四發の弾を運び來つて發射した。又彈薬車に！もう砲身は連續發射に眞赤に焼けてしまつて薬莢は飛び出した。萬事休す……今はこれまでだ。砲と共に護國の鬼と化さうと最後の決意を定めた時、前日城内に貢物に行つた際、敵襲の場合には應援を頼むぞ、と依頼して置いた病馬收容班の石川一等兵等三名が、七百米の後方から雨と降り来る弾丸を潜つて應援に來てくれた。これに力を得た上川上等兵は三名と共に更に猛撃を開始した。

暫らくして衛生隊との連絡を終つた鈴木准尉は衛生隊員を連れて來たので、重傷の江橋伍長、堀越上等兵を收容する事を得た。

これより先堀越上等兵は血のほとばしる鈴木一等兵を見かねて、自分の襷褲を脱いで掛けてやつたが、間もなく絶命してしまつた。「鈴木が」の聲に上川上等兵が後をふりかへつて見ると、准尉の腕から鮮血が流れて朱に染まつてゐる。「准尉殿大變です」と指さすと准尉は「實は最初に負傷したのだ」と答へて平然としてゐた。

激戦實に五時間餘、さしも頑強な敵も夜の明け方に退却してしまつたので、やつと愁眉を開いたが、此の時手當の甲斐もなく堀越上等兵は遂に息を引取つてしまつた。

東の山の彼方から眞赤に昇る旭日に従つて、次第に薄れ行く朝靄の中で上川上等兵は「吾れ一人命長らへて身に一彈も受けず、今は亡き戰友を思へば、ただ斷腸の思ひあるのみ」と長歎息して戰友の靈に合掌するのであつた。

■口に旗竿・死の抜手

揚つた!! 對岸太倉城に日章旗

病中挺身の下原中尉

追撃強行軍を續けて來た飯塚部隊は砂塵を蹴つて嵐のやうに太倉へ殺到した。城門は堅く鎖されて居り、城壁の到るところには銃眼が冷たく覗いて居る。そしてその城壁を繞るクリークには碧い水が満々と不氣味な沈黙を保つてゐる。尖兵となつて太倉東北角に到着した川上精一隊長は叫んだ。「誰かクリークを渡つて城門に日章旗を立て、來い」。その時軍服を脱ぎ裸一つ真裸になつた勇士が隊長の前に立つた。それは數日前から風邪を引き三十八度以上の高熱を押して、強行軍に加つて來た下原新

一中尉だつた。「私が行きます!!」と云ひ終るや日の丸の旗竿を口にくはへてクリークの中に飛び込んだ。中尉は霜月の身を切るやうな水の中から頭を上げたかと見る間に鮮やかな抜手を切つて十メートル餘のクリークを泳ぎ切つた。對岸の薄の中には十重、二十重に鐵條網が張り繞らされて居るのだ。搔き分けるやうにして岸に上つた下原中尉の全身には赤い筋が糸を引いて鮮血がタラ～と流れ居る。其の血を拭ひもやらず中尉は遂に城壁に迫り着いた。

見上げれば十メートル餘の黒煉瓦の城壁が高く聳えて居る。煉瓦の繼ぎ目に爪を立てるやうにして登つて行く、一メートル、二メートルと攀ぢ登る中尉の瞳は輝き、口に加へた日章旗が震へる。寒さに足も手も冷つて僅かに支へてゐる足先がくづれる。煉瓦の端に食ひ付く様にして上つて行く下原中尉、然し漸く上つた。翻つた! 日章旗がクツキリと蒼空に描かれたのだ。固唾を呑んで見とれてゐた隊長以下全隊員の拍手と歓呼が期せずして爆發した。時正に十一月十四日正午、これこそ太倉一番乗りの飯塚部隊の榮譽を表はす日章旗なのだ。

二 続 後 の 花

◆童心に溢るゝ感激の贈物

學園に咲く名花一輪

「カーン／＼／＼ アッ非常呼集だ!

「何事だらう? 何か變つた事が起つたのかしら?」

「日本軍の大勝利のお話かしら? ;それとも……」

等と幼い胸に思ひ／＼の想像を描き乍ら、急ぎ足に集つて行く男女五百餘の兒童、時は十月初旬の午前十時頃、こゝ臺中州彰化郡秀水公學校の校庭。

今しも「氣ヲ付ケ」の號令一下、整然と集合隊形を整へた兒童の前に、靴音高く壇上に立つた馬場校長は重々しい口調で、宮代信雄先生の名譽の出征を知らせた。

校長さんに代つて壇上に立つた宮代先生の元氣な出征の言葉が静まり返つた校庭に冴えて五百の少年少女の胸はおどり瞳は感激に光つた。

丁度其の日は土曜日で午前中だけで授業を終へた生徒たちは、勇ましい先生の姿を思ひ先生の武運を祈りつゝ三々五々家に歸つて行つた。

※ ※ ※

それから間もなく煉瓦造りの白壁の一室を閉ぢ切つて机の前に默禱を捧げる少女の姿が見受けられた。素朴な中にもあれこれと飾り立てゝ如何にも少女の勉強部屋らしい美しさと和やかな感じを見て居る。

少女は今しも祈り終つたのか机に擴げた白布の上に洗ひ清めた可憐な左の手をのせて、銳利な剃刀で中指の先を切つた。サッと吹き出た真赤の血潮、ボタリ／＼と白地の眞中を眞紅の色に染めて行く、だが擴げた豫定の日の丸にはまだ足りない。中指から薬指そして小指と三本の指先を切つて、流れ出る少女の眞心そのものゝやうな鮮血で見事に日の丸が描き上げられた。これを眺めた少女は心か

らの満足に指の痛さも忘れてニッコリ微笑んだ。

この少女こそは何とかして日頃やさしく御導き下さつた宮代先生に眞心籠めた贈物をしたいと一心に考へてゐた六年生の許氏冬桂さんであつた。

然し冬桂さんの贈物はこれだけではなかつた。更に第二の贈物千人針に手を着けんと、直に指に綿帶した儘戸外に出た。田舎家の一軒一軒を訪ねて一針又一針と頼んで歩くのは仲々容易な事ではなかつたが、冬桂さんはまだ針の目が三分の一にも達しないので夕飯を食べるのも、歸り道の遠いのも忘れてしまつてゐた。氣が着いた時には暮れ易い秋の日はもうすつかり西山に没して、四邊は深い夜の幕に覆はれて白鶲の群が彼方の竹籬へと飛んでゐるのがかすかに見える程だつた。然し先生を思ふ少女の一心は空腹も恐怖も少しも感じなかつた。翌日は幸ひ日曜だつたから、早く仕上げて先生の出征の日に間に合ふやうに、と朝早くから人出の多い彰化市まで出掛けて行つて、普通ならば三日も四日もかかる所を其の日の夕方までに仕上げてしまつた。千人の眞心が一枚の白布を眞赤に綴りなした時の喜びは一通りではなかつた。

「出来た〜。これでやつと間に合つた」

と天にも昇らんばかりに喜んで、早く先生に差上げようと宙を飛んで家に歸つた。

二日間の涙ぐましい努力の結晶である血染の國旗と千人針、そして子供心に先生が土地不案内の支那で若し斥候にでも出られて方角を間違へられたら大變だと、お父さんにお願ひして買つてもらつた磁石のついた腕時計のバンドも合せて贈る事にして、三つの品を夫々白布に包んで神棚に供へ、心か

ら先生の武運長久の祈願をした後、シッカと胸に抱いたまゝ夜道をついて先生の宿舎へと急いだ。

※ ※ ※

出征後取亂した所があつては軍人の恥であると、戰死を覺悟の宮代先生はあれやこれやと宿舎の中を取り片づけたり、書類の整理をしてゐた。その時戸外で何だか人の氣配がするので玄關の戸を開けて見ると、許氏冬桂さんが只一人でしょんぼりと頂垂れて立つてゐる。

「お入り！」と何時もの通り聲を掛けたが返事がない。

「おかしいね、どうしたの？」と柔しく訊ねると「先生これを——」と白い包を差し出したまゝ、續く言葉もない。

何だらう？と聞いて見ると眞心こめた贈物の數々、兒童の純真そのものゝ魂に打たれた宮代先生は「ソウカ！ 冬桂さん！ 有難う〜！！！」と冬桂さんの手をしつかと握つたまゝしばしは唯感激の涙にくれるのであつたが、やゝあつて力強い語調で

「あなたの眞心はきつと先生を最後まで守り通して呉れるでせう。先生は御國の爲にキット立派な働きをして必ず此の血染の日章旗を敵陣高く翻へして見せます」

と語るのであつた。

「先生お大事に！ さようなら」「有難う、途中に氣を付けてね」

我家を指して總べてに満足し切つて歸り行く教へ子の後姿を、伏し拜まんばかりにして見送る宮代

先生の眼からは、熱い涙が止め度もなく流れ出るのであつた。

●聞け！

聾啞者三人が寄する

熱誠の獻金、愛國の雄叫びを

聾だ!! 聰だ!! と嘲り笑ふ世の人々の冷たい眼を後に感じつゝも、どうにもならない不具の身を“生來の……”と自ら詠め乍らも自ら卑下して、人生の寂莫にひがみさへ生じ易い人々!

然し彼等も日本帝國の臣民である。大君の立派な赤子である。だからこそ生來の聾啞者で聞く耳はあれど人の言葉の通せざる、食べる口はあれども言ひ得ざる不具の身にも、非常時局の波の音を聞き分けて、國の爲君の爲少しなりとも盡さんとする其の熱情！其の赤誠！

普通人よりもモツト～深い人生の苦悶を體驗してゐるだけに、心底を奔流する愛國の熱情には聞

く者をして自から襟を正して三省せしめ、肅然たらしめるものがある。

聞け!! 此の聾啞者の憂國の雄叫びを！

讀め!! 此の不具者の愛國の赤誠を！

※

※

※

私達は耳が聞えません。又口も利けない聾啞者でございます。今我が日本軍は東洋平和の爲め、暴支膺懲に尊い犠牲を拂ひつゝあります。考へて見ると私も早く出征し度くてなりません。然し聾啞者なるが故に第一線に立てないと思ふと殘念で～なりません。けれども私達聾啞者も矢張り日本男子に違ひないと思ひます。

……中 略……

戦ひに出られない私達も身分に應じて銚後の一員としての自覺を一層強くさせられます。私は自分の毎日の仕事を今までよりも一生懸命に努める事を堅く決心し實行致して居ります。恐れ多い事ながら

國をおもふみちにふたつはなかりけり

軍の場にたつもたゞぬも、と

明治天皇の仰せになつた事を大阪の聾啞學校で習つたのを思ひ出し、つくづく銚後の國民としての觀念を深めました。

同封のお金は私と友達の山口哲男君と尾上之保君と三人で相談して小遣をためて置いたお金です。誠に僅かですがお國の爲めに役立てゝ戴いて、幾らかでも聾啞者として盡す事が出来れば私達は非常に嬉しく思ひます。

普通人でない私には思ふ様に話すこと、書く事も出來ません。簡単ですがどうか私共の心を御推察下さつて願ひを聞いて下さい。

臺北市榮町三丁目

鎌野

一

憲兵隊長殿 そして此の手紙と共に鎌野氏の七圓と山口氏の二圓尾上氏の一圓計十圓が封入してあつた。

此の十圓の中に籠められた三人の赤心こそは、富者の數萬金にも勝る愛國の獻金として、憲兵隊の將士一同を深く感激させてゐる。

附 錄

二八

事 變 日 誌

臨 時 情 報 部

十一月十日

1. 上海戰線

- 1、松江を奪取せる我が部隊は早晩青浦縣城を確保せり。
- 2、江橋鎮南方一軒の家橋洪家衝を占領せり。
- 3、滬杭甬線に沿ひ張徑・渭市・清涼巷を占領せり。
- 4、南翔の南端に肉薄せり。
- 5、北進せる我が新銃上陸部隊と上海方面より南下せる部隊が泗涇鎮東方地區に於て相合し南北の連絡完成せり。
- 6、之により上海包囲完成。上海市街の安全確保され在住外人感謝しおれり。

十一月十一日

1. 上海戰線

- 1、我が軍未明、浦東に上陸を開始し殘敵を掃蕩、南市對岸白蓮涇鎮に達せり。
- 2、上海西南七里の北橋鎮を占領せり。
- 3、青浦縣城より北上せる部隊白鶴港鎮を占領せり。
- 4、夕刻吳港潭附近蘇州河を突破せり。
- 5、京漢線方面に於て大名縣城を占領せり。
- 6、京漢・津浦兩線中間地帶の藁城・晉縣・平鄉・南和・

大名附近に於て第二十九軍敗殘兵約一萬を撃滅せり。

- 1、津浦線東側地區の鹽山・慶雲を占領し山東省内に進入せり。
- 2、禹城附近・莘庄飛行場(濟南)・崑山・南京・嘉善・洛陽・太倉・常熟・廣宗・平鄉・晉縣・南和・藁城・辛集・蘇州河上の武定・濟南。

十一月十二日

- 1、天皇陛下に於かせられては北支及び内蒙方面に作戦中の我が陸軍將兵に對し參謀總長宮殿下を召させられ優渥なる勅語を御下賜あらせられたり。
- 2、皇后陛下には親しく戰傷病將兵を御見舞懸ろに勞を犒はせられたり。
- 3、堅壘南翔を占領せり。
- 4、南市城内を完全に占據せり。
- 5、崑山東南方の夏駕橋鎮を占領せり。
- 6、我が海軍黃浦江の水路を啓開し航行可能ならしめ

十一月十三日

- 1、我が陸軍楊子江白茆口附近の敵前上陸に成功せり。
- 2、要衝嘉定を占領せり。
- 3、崑山南方四軒の青陽港を攻略せり。

二九

アシア歴史資料館
Asia History Museum

三二

8. 無錫・長興を空爆せり。

9. 事變發生以來本日迄に判明せる支那軍の損害左の通り、

遺棄死體——一四五・四七〇。

死 傷——五五四・二九〇。

(上海方面——三〇〇・〇〇〇)

捕 虜——九・三〇〇。

(上海方面——一・〇〇〇)

鹵獲兵器

小 銃 二三・四九六。
銃 刺 一五・九四〇。
重機關銃 五七〇。
輕機關銃 二・二九六。

刀 一〇・四四三。
火 砲 二〇八。

(以下次號)

昭和十二年十二月一日印刷

(月三回發行)

臺灣總督府臨時情報部

印刷人 加藤 豊 吉

臺北市榮町二丁目十五番地

印刷所 小塚本店印刷工場